

人は心に自分の道を思い巡らす。

しかし、その人の歩みを決めるのは 主である。 (箴言8の9)

A man plans his way in his heart, but the LORD determines his steps.

だれでも、自分はいかに生きていくべきか、自分の道というものを考える。自分の今後の夢といたり、単に将来を考えると云ったりするが、その程度の差は相当あっても、自分の今後の道を考えない者はいない。自分で自分の道を切り開いていく一といった強い意志を表す人もいれば、どんなに生きていくべきか全くわからない、将来の計画も建てられないという人もいる。

しかし、人間がいかに聡明であり、緻密に思索して歩むべき道を考えてその道を歩もうとしても、決して考えた通りにはいかない。突然の事故や病気、あるいは家族の病気や離反、また政治や経済状況の変化、さらには予想もしなかった自然の災害、あるいは国によっては武力衝突、内戦一等々、いかなる人でも自分の考えた通りに歩むことができない。

どんな人間でも、明日自分に何が生じるかさえ、予見することができないし、いつも一緒にいる家族や同僚の心に何を思っているかも見抜くことはできないし、たった一人の人間の心に愛を生み出すこともできない、心も清くすることはできないほど、人間の能力にはいちじるしい限界がある。毎日たくさんの人々が交通事故によって命を落としている。しかし、だれも自分が明日たいへんな事故に遭遇するのかどうか—ということは全くわからない。

それゆえに、私たちは不安であり、動揺し、また将来のことを思って悲観してみずから命を絶つ人さえいる。

こうした人間の遭遇する出来事に関して、しばしば運という言葉が使われる。運とは何か、人間にはどうすることもできない成り行きをいうが、偶然ということと結びついている。運よく助かったとは、偶然的に助かった、ということである。

しかし、聖書に示された考え方は、そうした一般的、常識的なものではない。

いかなる偶然も神の前には存在しない。ただ私たちがそうした成り行きを見抜くことができないだけである。

この世界、宇宙は全能の神が創造し、現在もそれを支えておられ、かつその神の本質が愛であるなら、私たちの前に生じるさまざまな出来事も、何らかの意味がそこに込められていることになる。

私たちの歩みを決定するのは、神である。

この短い言葉を本当に信じることができるなら、何ごとが生じようとも、それは愛と全能の愛なる神の深いご意志による、と受けとることができる。

そして、いかに困難な道、また苦しみや悲しみの伴う道であったとしても、そうした歩みは、私たちの思いをはるかに超えた神のご意志から出たことであり、最終的には、愛の神のもとに導いてくださる—それが神の御計画なのであり、そのような信仰へと日々導かれたいと思う。



ニッコウキスゲは、よく知られた花であり、本州から北海道にかけての山地でよく見られます。日光付近で多く見られたということがあってこの名前がありますが日光地方に特に多いということではありません。黄色の花を持つスゲ（菅）に似た葉を持つ植物という意味です。スゲといわれる植物はたくさんあり、日本でも 200種を越えるほどです。身近な野草としてよく山野に見られます。そのうち大きいものはすげがさ菅笠という名前のように、笠に使ったのです。

秋田駒ヶ岳の 8 合目からほとんど人の行かない山をたどって頂上に達する道で、このように広がっている光景に出会って、まさに天使たちの賛美が聞こえるようでした。

この日は、天候に恵まれ、青い大空と真っ白い雲、そして前日の雨によって大気は清められ、山の緑もいのちに満ちたものとして感じられます。

こうした高山に咲く花々の姿は、黙していながらさまざまなことを見るものに語りかけていて、山々、青空、雲などとともに、清くかつ壮大なハーモニーを生み出しています。

(文、写真とも T. YOSHIMURA)